きたかみ在宅医療介護連携支援だより

発刊：第４号
発行：平成２９年７月

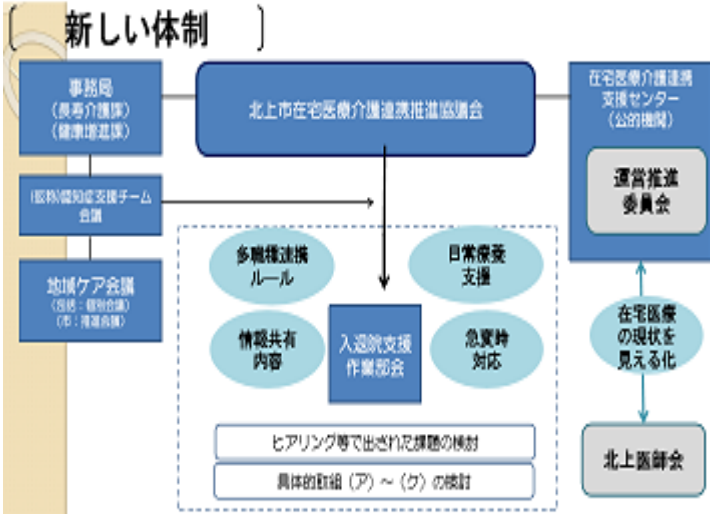
平成 29 年度　第 1 回

北上市在宅医療介護連携推進協議会が開催されました

平成 29 年 5 月 30 日、北上済生会病院にて平成 29 年度第 1 回北上市在宅医療介護連携推進協議会が開催されました。協議会冒頭、岩手県保健福祉部長寿社会課高齢福祉担当大釜範之課長にお越しいただき「医療施策と在宅医療推進の必要性について」、また、協議会メンバーである岩手県中部保健所栃内圭子医務主幹より「中部保健医療圏の取り組みについて～医療施策と介護保険計画との調整と広域連携支援～」と題して情報提供をいただきました。長寿介護課より、協議会要領の改正、協議会のスリム化及び部会の設置について報告が行われました。また、在宅医療介護連携支援センター（以下連携支援センター）より、活動報告及び「運営推進委員会」を連携支援センターの組織内に設置し、病院や医師会関係者をメンバーとして迎え、切れ目のない医療と介護の連携体制、とりわけ在宅医療の推進を進めていくこと、連携支援センター長に北上済生会病院柴内一夫医師の就任が報告されました。続いて、平成 28 年度課題抽出と取り組みの総括及び平成 29 年度事業方針・事業計画（案）について協議が行われました。まず、平成 29 年度事業推進方針案が次のとおり示されました。

1．医師会との連携を強化
2．入退院支援の連携推進
3．意思決定支援の研修
4．慣れ親しんだ場に住み続けられるための支援
5．ケアマネジャーの多職種連携スキル向上の支援
6．課題に対する取り組みを推進し進捗状況を共有する
7．市民が幸せに歳を重ねるための「心づもり」を推進する

事業計画案としては、昨年から引き続き各団体へのヒアリングと実態把握の実施、医師会との連携強化、医療介護専門職を対象とした意思決定支援の研修実施、入退院支援部会の立ち上げ、多職種事例検討会の定期開催、地域包括ケア推進フォーラム開催などが示されました。これに対して委員からは、医療専門職に加え、介護職も看取りの勉強が必要であり段階を追って実施していく必要があること、示された事業方針・計画について、どのような到達指標で評価していくか、アウトプット・アウトカムの工夫が必要であろうとの指摘をいただきました。



デイ生活相談員連携交流会が開催されました

主催：きたかみ生活相談員連携実行委員

平成 29 年 4 月 24 日(月)、北上済生会病院にて、通所リハ・通所介護事業所の生活相談員を対象としたデイ生活相談員連携・交流会が開催されました。約 20 名の方が参加し、「相談員の悩み・解決策を共有しよう」というテーマに沿って、グループワークによる情報共有と参加者同士の交流を深めました。参加者からは、生活相談員同士が集まれる場自体がなかったことや今後も継続開催の望む声をいただきました。今後はデイ生活相談員のみの活動とせず、広く施設生活相談員の連携交流の場として取り組んで行くこととなりました。

第 2 回デイ生活相談員連携交流会のご案内

7 月 14 日金曜日午後 6 時 30 分から午後 8 時まで北上済生会病院大会議室を会場に複数のテーマに沿って気軽に情報交換を行いながら一緒に解決策を話し合い、相談員同士のつながりを深める場所を目指して開催されます。詳細についてはすでに送付している案内をご覧ください。お問い合わせは在宅医療介護連携支援センターまでお願いいたします。

支えあいの地域づくりの輪をひろげよう
ご近所おたすけボランティア養成講座

北上市保健福祉部長寿介護課

5 月 17～18 日、北上市民交流プラザを会場に、ご近所おたすけボランティア養成講座を開催し、住民 59 名が参加しました。この講座は、地域住民が近隣の高齢者の暮らしを支え合う環境をより充実させるために、高齢者の生活支援や健康づくりのお手伝いをするボランティアを養成するものです。講義では高齢者をとりまく現状、介護保険の基礎知識、ボランティアの基礎知識等を学び、実技では認知症サポーター養成講座、介護予防といきいき百歳体操、キャップハンディ体験、シニアのためのコミュニケーション講座を体験しました。この講座は、４月からスタートした介護予防・日常生活支援総合事業のうち、住民主体の支え合い事業の担い手となるボランティア養成講座にも位置づけられています。2 日間の講座を修了した 59 名に「ご近所おたすけサポーター」に登録していただきました。今後、地域での活動が期待されます。引き続き 7 月と 9 月に養成講座を開催予定で、多様な担い手の育成と活躍の場づくりに重点的に取り組んでいきます。

きたかみ型地域包括ケア推進フォーラム開催ご案内

主催：北上市・在宅医療介護連携支援センター

8 月 11 日　さくらホール中ホールを会場に 13：00～『幸せに歳を重ねるための心づもりを始めましょう』というテーマとしてみんなで考えるきたかみ型地域包括ケア推進フォーラム開催します。講師に旭川大学病院緩和ケア診療部阿部康之氏をお迎えし「エンディングノートは一人で書いちゃだめ！－話し合って決める人生の花道」講演されます。申し込み受付があります。詳しくは北上市役所長寿介護課までお問い合わせください。

第１回ケアラボ@きたかみ【多職種事例検討会】が敬愛園で開催されました

主催　北上市･北上市地域包括支援センター主任介護支援専門員部会
　　北上市在宅医療介護連携支援センター

平成 29 年 6 月 15 日㈭18：30～敬愛園を会場に、ケアラボ@きたかみ（多職種によるケアマネ支援の事例検討会）が開催されました。このケアラボ@きたかみは、様々な視点から事例を検討し、介護支援専門員の自立支援型ケアマネジメントの実践力向上と、保健・医療職やインフォーマルサービス等を含めた地域包括支援ネットワークの構築、地域課題の把握及び多職種相互理解と顔の見える関係づくりを目的として企画されました。今年度は計 6 回の開催を予定しています。第 1 回となった今回は、総勢 70 名を超える方が参加されました。介護支援専門員を中心とした、多職種により構成された 5 グループと一般参加によるギャラリーに分かれ、地域包括支援センターいいとよ、北上中央より提出された 2 事例について、批判せず、各専門職の視点で自由に討論を行い、グループごとの発表、全体討論を行いました。

全体の進行役を地域包括支援センターわっこの老林さん、スーパーバイザーをホームケアクリニックえんのＭＳＷの櫻井さんが務めました。皆さん積極的に討論に加わり、各職種の視点に立った様々な意見を聞くことができました。

次回は 7 月 20 日（木）、北上市社会福祉協議会を会場に開催されます。近日中にご案内いたします。
申し込み･問い合わせについては在宅医療介護連携支援センターまでお願いします。

まごころ薬局第１回お薬無料相談会が開催されました

まごころ薬局　薬局長　森内　新

平成 29 年 6 月 19・20 日、まごころ薬局を会場に、お薬無料相談会が開催されました。定期的に来局している患者さんの他、近隣住民の方に対し、普段の服薬指導では時間の制約などもあり説明しきれない、健康サポートに関する相談を受け付けるイベントです。
当日は、健康への関心を高める目的で血圧計・体組成計・ポータブル心電図などを設置。
各種リーフレット、地域包括支援センターのパンフレット等を準備しました。2 日間の相談件数は 18 件でした。主な相談内容は、・サプリメントや市販薬と処方薬の相互作用・在宅医療について・薬剤師になるための方法について（進路相談）・服薬中の薬の副作用について・長期連用の処方薬について、でした。新たな「かかりつけ薬剤師」の契約も成立しました。相談に 1 人あたり 30 分～60 分程度時間をかけることができ、ご相談いただいた方も概ね満足して帰られた様子でした。

在宅医療介護連携支援センター長就任ご挨拶

北上済生会病院　リハビリテーション科科長兼脳神経外科医長　柴内一夫

この度、在宅医療介護連携支援センター長を仰せつかりました「しばない」と申します。今年の四月に青森県八戸市から北上市へ転居して参りました。専門領域は急性期の脳血管障害です。脳血管内治療専門医として、特に急性期脳血栓回収術はこれからも随時対応させて頂きたいと考えております。

さて、佐藤智彦北上済生会病院参与をはじめ、多くの方々のご尽力により当センターが開設されました。そのまとめ役としての重責は大きく圧し掛かるものでございます。訪問診療は十数年前に一年ほど携わったことがある程度で、この分野に関しましては正にひよっこです。当センターの業務にかかわり始め、その大切さを実感しているところです。センター実務を担当する菊池絹子主任や菊池涼子医療ソーシャルワーカーの躍然たる仕事ぶりにも触発され、新天地を歩き始めた期待感に胸を膨らませているところでもあります。

すでに時代は、などといいますと大袈裟ですが、地域、連携、在宅などをキーワードとして、医療と介護が大きく変わる局面を迎えました。大切なことは、この地に暮らす方の個々のライフスタイルの尊重にあると考えております。そこに介入していく医療と介護の職務が、円滑に行えるようお手伝いできるのであれば、これ以上の喜びはありません。幸いなことに、北上医師会から重鎮の方々を当センターの運営推進委員としてお招きすることができました。また、北上市保健福祉部の皆様からは、当初より多大なお力添えを賜っております。皆様方のご指導、ご協力に感謝いたします。目の前には様々な問題が横たわっています。「快刀乱麻に諸問題を解決する方法などは存在しないので、各当事者の期待水準を現実的なレベルに改めつつ、地道に努力する以外に解決策はない」と、40 年にわたって医療介護問題を研究してきた池上直己氏（日本経済新聞出版社刊/日本の医療と介護）の著述がございます。これを受けまして、地道に、微力ながらコツコツ、頑張っていきたいと決意した次第です。

ご指導、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

《編集後記》

今後も医療介護に関する情報や取り組み、連携支援センター活動報告などをお届けしていきます。情報発信したい、連携したいなどありましたら是非情報をお知らせください。梅雨に入り蒸し暑い日が続いております。皆様ご自愛ください。

在宅医療介護連携支援センター

センター長	柴内　一夫
看護師	菊池　絹子
医療ソーシャルワーカー	菊池　涼子

在宅医療介護連携推進事業担当

北上市長寿介護課課長	及川　健二
課長補佐	皆川礼一郎
主任保健師	住吉　香奈子

《発行》在宅医療介護連携支援センター
〒024-8506
北上市花園町一丁目 6 番 8 号
（北上済生会病院 管理棟 2 階）